

ネットミーティング開通!



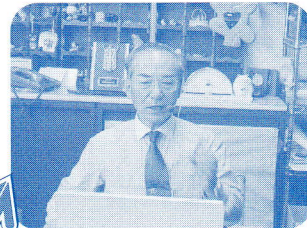
ヘッドセットでクリアな通話

かねてから進めていた森松ネットミーティングが立ち上がり、森松上海連絡事務所、中国の合弁企業である四川義信文化用品有限公司などとリアルタイムな動画通話を実現しました。

森松のIT化を進めるべく誕生したパソコン委員会を中心に、WEBカメラとヘッドセットを準備し、テレビ電話方式でストレスのない通話となっています。これまではメールと電話で行っていた業務連絡が顔を見て話せるので、コミュニケーションにも役立っています。サンプル確認なども実物を見ながら説明できるので、業務へもたらす影響は多大なものです。

ソフト自体はWindowsに付属しているNetMeetingを使ううえ、常時接続なら通話料は無料。「安くて便利」—世界がまた少し近く感じるものです。

齋藤 浩一 (クイックファイブ)



カメラはパソコン内蔵型



ビデオのように表情も伝わる立派なツール



サンプル説明にも便利

テレビを見ることについて

帰国以来テレビの無い部屋に住んでおります。不便かと思いきや、現在特に問題ありません。ここ数年、日本のテレビをまともに見てない気がします。昔は一日何時間も見ていたテレビですが、新聞のテレビ欄をチェックすることも無くなりました。百聞は一見にしかず、とも言いますが。

「テレビから得ることの出来る情報」＝「与えられる情報、または絶対必要でもない情報」ということが私のテレビ観です。極端ではありますが、テレビは頭が働かない時もそれなりに画面で起こっている事は理解出来ます。またテレビは最大公約数の情報(大多数の人の興味を引き、かつ理解し易い形に変換されたもの)です。テレビで知った事柄は大多数の人がその事柄を共有していると言えるでしょう。その他のメディアは対照的に(雑誌、インターネット)、自分が求める情報だけを取り入れることしか出来ません。「アメリカは医療ミスで年間何人亡くなっているか」「この国に飲酒年齢制限が無いか」適当なキーワードさえ入力できれば情報は手に入ります。知りたがり屋の人にはこれほど便利な道具は無いでしょう。しかし、テレビとその他のメディア、どちらも両極端で、両方とも使いこなしていることが良いに決まっています。台風がどれぐらいの影響を及ぼしているか、気圧と風速だけ知ると、暴風域の映像を見るとでは明らかに映像を見るほうが感覚として伝わり易いですし、また自分が何となく見た番組からふと疑問が解けたり、インスピレーションが湧いてきたりすることもあるでしょう。

現在ケーブルテレビ、衛星放送など、テレビのチャンネルが増え、内容は細分化しております。それだけより狭く深い情報もテレビで放映される時代となりました。テレビは放映される時間が限られている分、私のようにビデオは映画を借りて見るものと思っっている人にはテレビは扱いにくいモノでしょう。ビデオの「再生」機能だけでなく「録画」機能も利用してみようかと思えます。



社長 森 直樹

naoki@morimatsu.net

『社長をだせ！/実録クレームとの死闘』 川田茂雄著・宝島社刊

著者は、あるカメラメーカーの消費者相談室、各サービスセンター所長として長年に渡りクレーム処理を担当し、そのクレームの体験記をまとめた書。過激な題名で有るが、中身はクレマーとの具体的なやりとりで、窓口の対応如何で社の存続に迄発展しかねない、色々の事例を具体的に記載されており、面白く読めた。全てが個人客とのやりとりの苦労話の為、振り返って、我が社の得意先へのクレーム再発防止対策書作成等の参考には余りならないが、クレーム処理への考え方、大切さは大変共感を覚えた。

個別のクレーム処理の事例の後に、“このクレームの教訓”の一文があり、例えば「不測の事故が起きない様な設計、危険を回避出来る様な設計をして性能を向上させると共に、カタログなどにはデメリット情報を積極的に載せていく事が益々重要だ…」 「社内のコンセンサスを充分に取って、何処から攻められても負けない体制を整えた上で戦う必要がある」 又「事故が起きようが、使い勝手が悪かろうが、クレームをつけない。何も言わない。要求しないのですからクレームの形態に区分けするのはどうかと思うかも知れませんが、実はこのタイプのクレームが企業にとっては一番怖い、見逃す事の出来ない重要なクレームなのです」…使い勝手の問題などは指摘されなければ気がつかない場合があり、メーカーは常にユーザーの反応や評判などにもしっかりとアンテナを張り、眼を配って行かなければならない。→どの様にこの様な情報を入手するか？考えなければいけないと思います。又、現在の我社では事例は無いが、インターネットでのクレーム対応は、近い将来の事として興味深いものであった。

上田 邦男 (Σ-208)

『「なぜ？」がわかる博学BOOK 禁じられた理由編』 素朴な疑問研究会 編

「なぜ? WHY」。モーリン語録にもあり 最近、社内でも飛び交う言葉。7年前に初版発行され、最近 再びクローズアップされてきている。非常に単純な内容であるが「知らなかったこと」が多くあり非常に勉強になった。

1) なぜ、自動車ナンバーに、この文字は使われないのか？

ナンバープレートには、「…1」から「9999」までが登録されている。しかし、末尾が「42」と「49」の数字は「死」や「苦しみ」を連想させる不吉な数字…から使用されていない。また、ナンバープレートの左下にある「ひらがな」も「お」「し」「へ」「ん」の4文字は使用禁止されている。

「し」：死に通ずるから

「お」：事故などで瞬時にナンバーを確認する際、形が似ている「よ」「あ」などと読み間違える恐れがある。

「ん」：発音しにくいから。

「へ」：「屁」を連想させ「へ」ナンバーの車がイジメにあう恐れがあるから

2) 軽自動車のナンバープレートはなぜ、白ではダメなのか？

軽自動車のナンバープレートは、20年ほど前までは白かった。それは、「高速道路の料金所の係員を楽にするため…」に法律が変わった。料金所を通過する車が、軽か普通車をひと目で見分けるために色を変えた。それと、高速道路の速度基準も軽と普通車は異なるため警察が取り締まるのにも都合がいい…。

バスの運転手は、なぜシートベルトをすべきではないのか？ アメリカでは、なぜ履歴書に写真を貼らせてはいけないのか？ どうしてレタスは包丁で千切りにしてはいけないか？ 全7章から合計128のなぜ？を勉強した。考えてみると回答が解からないことが多かった。世の中には、摩訶不思議な禁止事項や規制がたくさんあることに気がついた。

しかし、中には、納得のいかない理由・「なるほど…」と感心させられる理由があった。世の中の仕組みや裏事情が見えておもしろかった。

伊東 郁二 (ニーズ)

『阪神優勝』

これから書くことは、一阪神ファンのたわいもない独り言としてお読み下さい。

にわか阪神ファン、隠れ阪神ファンといわれるかもしれませんが、実は、私は子供のころから阪神の大ファンなのです。江夏、田淵の黄金バッテリーは最高でした。しかし彼らは阪神で優勝したことは一度もありません。しかし江夏投手は他球団へ移り優勝請負ピッチャーと言われたくらいですし、田淵選手も西武で優勝の立役者として頑張りました。しかし、阪神ファンの私としては、彼らに甲子園球場のマウンドで抱き合う姿を見たかったです。良い選手、記憶に残る選手はたくさんいたのに…。

野球は二人ではできないものです。あのときは運が悪かったというか、チーム全体が、優勝に対しての執念が今一つ足りなかったのでしょうか。しかし、今年の阪神は違います。十八年前優勝時のように勢いがあり、途中で息切れしません。中心選手が怪我で休場しても次から次と活躍する選手が出て来てチーム全体が優勝に向けてひたすら、油断することなく突き進んでいるという感じです。他球団よりきたベテラン選手、外国人選手、若手選手が、がっちり組み合っているという感じがします。こんなチームにしたのはやはり星野監督でしょうか？自分的にはあまり好きではありませんが。しかし、今の阪神を見てみると認めざる得ません。使われ過ぎて潰される選手が出ないことを祈っています。

この原稿が載せられるころには、阪神にとつての死のロードも無事に乗り切りマジックが一桁となっていることでしょう。



阪神、バンザイ
他球団のファンの方どうもすいません。

伊藤 雅典
(レインボーIII)

2003年

9月の予定



6日(土) 第1土曜休み

8日(月) 誕生日会

12時00分～13時00分

志水さん誕生日

11日(木)

～ 中国情報会

14日(日)

13日(土) 第2土曜休み

14日(日) 安井さん誕生日

15日(月) 敬老の日

23日(火) 秋分の日

24日(水) 経営会議

営業会議

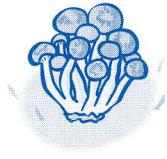
26日(金) 編集会議

27日(土) 第4土曜休み

7時30分～

15時10分～

17時30分～



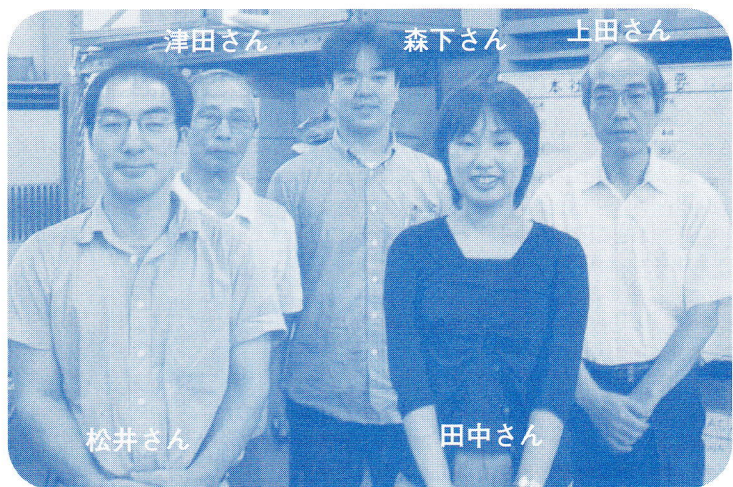
サークル紹介 第二弾

Σ-208

20代～60代と幅広い年齢層から成るサークルチームです。

チームの由来は全員の年齢を合計すると208になるところからきております。

ジェネレーションギャップを乗り越えてみんなと頑張っってやっていきたいと思ひます。



第11回森松展日程決定

日時 平成15年10月23日(木) 9:00～17:30
24日(金) 9:00～17:30
25日(土) 9:00～17:00

場所 森松株式会社 本社5Fホール

テーマ:「WHY」が未来を創造する

サブテーマ:「見たい!聞きたい!そこが知りたい!」

※上記時間帯以外にご来場の方は担当営業マンまでご連絡下さい。ご案内させていただきます。

わかっているつもりのあんなこと でもはっきりとは… そんな疑問にお答え致します。

編集後記

八月、花火の季節です。私の故郷でも花火大会がありますが、その数なんと八十発。何万発も続いて空が明るくなる都会の花火もいいですが、数分おきに一発ずつあがるのもなかなか味があるもの。「もう終わつまつたべが?」と下を向いた頃にドカーンと一発。そうやってじらされながらのひとときはご近所大集合で、酒のつまみはなんととっても持ち寄りの野菜たち。花火を見るのと同じくらい、獲れたてをみんなでいただくのが楽しみですなですね。

一つ一つの持ち味を味わうという、ある意味全てに通じる原点を、ひとめぼれに囲まれたながら感じた田舎の夏でした。

齋藤 浩一
(クイックファイブ)

